



Information12

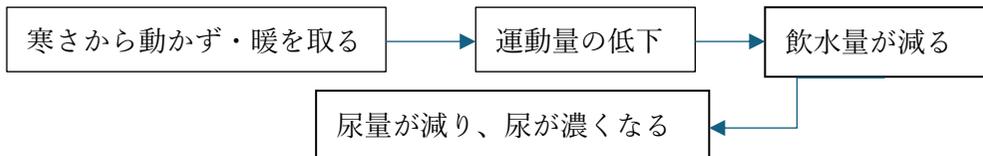


寒い季節がやってきて、冬によく聞くトラブル

尿トラブルについてのお話。

なぜ冬に多いのか？考えられる点が2つあります。

- ① 運動量の低下
- ② 飲水量の減少



冬は寒さからお散歩やお家遊びも減ってきます。

飲水量が減ると尿量が減る+尿が濃くなります。

泌尿器に侵入したバイ菌を
洗い流すことが難しくなり
炎症が起きやすい

ミネラル分が蓄積し
腎臓や膀胱に
結晶・結石がしやすい

【予防方法&対策】



- ① 定期的な尿検査

尿を液体で持参するだけで大丈夫！動物たちは連れてこなくてもかまいません。

- ② 新鮮なお水を何か所にも設置&様々な水皿を用意する

特に猫は、好みのお皿やお水があるなどこだわりが強いことが多いです。

(例えば、蛇口からの水が好き・お湯が好きなど)



そのお水をいつでもおいしい状態に保つのが大切です。



- ③ トイレを常に清潔に！

1日1回取り換えるではなく、使用したらきれいに掃除をしましょう！

トイレは大きめ、お家にいる動物+1は設置が重要です。



泌尿器疾患は、尿石症・膀胱結石・尿道閉塞・膀胱炎・前立腺炎・腎臓病など数多くの病気があります。

この全てが、冬に多く飲水量の影響に起因するわけではありません。

【冬に多い代表的な泌尿器疾患】



～尿道閉塞～



膀胱内の上皮細胞や結石になる前の結晶・結石が尿道に詰まってしまい

尿が出ない状態のことで、オス猫に多く診られます。

1日尿が出ないと、尿毒症に陥り死に至る可能性があります。

基本的に入院治療で点滴をします。退院後は療法食と定期的な尿検査で維持！

(症状)

- ・頻尿・血尿・陰部を舐めて気にする・排尿時に鳴く・尿がキラキラしている
- ・トイレで長時間排尿姿勢をとる・ニオイがきつい・食欲不振・嘔吐

～膀胱炎～

膀胱炎になる原因として、尿道口から細菌が侵入して起こる場合や膀胱結石が膀胱内を傷付けて炎症を起こす場合と考えられます。

尿検査をして、結果に合わせた注射治療や食事療法をしていきます。

(症状)

- ・少量の尿を何度もする・血尿がでる・粗相してしまう
- ・排尿姿勢をするもおしっこが出ていない・ニオイがきつい



運動しないからのどが渇かない…人も動物たちも動きが鈍くなりがちです。

乾燥もしますので、定期的なお水を飲むことが大切になってきます。

泌尿器疾患は命にかかわる場合もありますので注意が必要です。

早期発見は治療を進めるうえでかなりの差が出ます！

月1回の尿検査！尿の取り方はご相談ください。

